

「(仮称)日野市こども計画」策定に向けた課題

「日野市子ども条例」は、認識度が全世代通じて低く、権利擁護・保障の点から周知は一つの課題といえる。また、こども大綱の基本方針に「こども・若者を権利の主体として認識し、その多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図る」と定められており、子ども・若者の権利擁護・保障は子育て政策において取り組むべきテーマの一つに位置付けられている。また、施策の推進にあたっては、子ども・若者・子育て当事者の視点を尊重し、意見を聴き、対話することが求められている。

○子ども・子育てに関する現状と課題

・課題 1: 子育てをしている親の悩み

子育て中の親の多くは子どもの声に耳を傾け、子育てに喜びを感じているものの、悩みを抱えている。特に、子どもの「発育・発達」、「教育」に関する悩みが増えている。

・課題 2: 気軽に利用できる支援サービスの充実

支援サービスについては、「宿泊サービス」や「育児技術指導」への需要が高い。相談窓口の利用においては、相談しやすい環境及びアクセスのしやすさを重要視している。

・課題 3: 親の就労形態に対応した保育ニーズの提供

保育サービスの充実や育児支援の休暇等の制度の整備が進んだことで、子育て家庭は様々なサービスを利用できるようになっているが、フルタイム勤務の親が増加しており、支援できる親族や知人が減っているため、家事負担の大きさにより仕事と育児の両立に苦慮している傾向がみられる。

・課題 4: 社会環境の更なる整備

学びの場や遊び場の充実と保育・教育への経済的支援を求める声や、安全に暮らせるまちづくりを求める声が多く見受けられる。

・課題 5: 複合的な課題を抱える家庭への支援

子育て支援を行う団体・事業者が現場レベルで感じるものとして、困難を抱える子どものいる家庭は本人だけでなく世帯全体を支援する必要があると考えていました。支援の結果として、孤立・孤独や虐待という社会問題の発生の予防につながるので、早期発見・早期対応のために関係機関の連携強化が必要との意見が多くございました。



○「こども計画」策定に向けた課題

- ・身近な地域で気軽に相談できる相談窓口機能の整備
- ・子育て世代のニーズに対応した保育・教育サービスの充実
- ・様々な理由で困難を抱える子ども・若者とその家庭を早期に把握し支援する体制の構築